ハルのコイン

作　中山 信之

【登場人物】

神崎　ハル	女	母
神崎　由紀夫	男	父 作家
神崎　ひなた	女	長女 ＯＬ
神崎　達樹	男	長男 大学生
佐野　英治	男	担当編集者
絵梨	女	旅館従業員
るり子	女	旅館従業員（双子）
希	女	旅館従業員（双子）
優子	女	役人
ヒデ	男	ハッカー
千秋	女	ハッカー

▽1場

未来。どこかの施設、だった場所。コールドスリープ（冷凍睡眠）の機械がある。
緞帳が閉まっている。暗転中、ヒデと優子が幕前に座っているところに、楽屋側の入口から千秋が入ってくる。

千秋　すみませーん。
ヒデ　あん？
千秋　あれー？もう始まってるの？
ヒデ　その声は、千秋か。入ってこい。
優子　遅刻ですよ。
千秋　ごめんごめん。
ヒデ　今から始める所だ。まったくお前は、

明転。（舞台袖にも光源）

千秋　良かった。間に合ったかー。
優子　間に合ってません。
千秋　うんうん。ごめんねー。良かった良かった。
ヒデ　仕事には余裕を持って、
千秋　だから、ごめんってば。
ヒデ　ふぅ……。
優子　（ヒデに）大丈夫っておっしゃってましたよね？これでどうにもならなかったりしたら……いえ、そもそもあなたが無理やりに、
千秋　怒らないのー。

千秋、悪びれる風もなく舞台に腰掛ける。優子、やれやれといった様子。

ヒデ　始めよう。
優子　ええ。
千秋　はーい。
優子　対象者は「神崎ハル」さん。コールドスリープ開始は５２年７月２０日、午後０時。
ヒデ　知ってるよ。その辺のキーワードはもう試したんだろ？
優子　はい。散々。
千秋　そんな昔からコールドスリープなんてできたんだね。
優子　ええ。今では法律で禁止されてしまいましたが。中でもかなり初期のスリーパーです

千秋　ね。
ヒデ　いつまでに解除を？
千秋　今日中だ。
優子　今日中？
千秋　はい。
優子　今日って……今日？
千秋　ええ。後１２時間で終わる、今日です。
優子　無茶言うねぇー。
千秋　大変なのはわかってます。しかし、
ヒデ　つべこべ言うな。そこを何とかするんだ。

千秋、優子やヒデの話を聞かず、立ち上がって、光っている方の袖をのぞく。

千秋　わーこれかー。
優子　話聞いてます？
千秋　初めて見た！ ホントに中で人が寝てるよ。すげー。
優子　はぁ……。
千秋　顔色悪ーい。
ヒデ　千秋、仕事するぞ。
千秋　はーい。
優子　お願いしますよ！
千秋　辞書は試したんでしょ？
優子　ええ。
千秋　エマージェンシーコードは？
ヒデ　見つからないらしい。
千秋　そっか。
優子　もうこの施設を使わなくなって随分経ちますからね。
千秋　「未来が予測できなかった科学者」と「生きていくことに嫌気がさしたおばさん」。
　　そして、（優子のそばに行き）「昔の実験の事なんて忘れてしまったお役人さん。」
ヒデ　まぁそう言うな。ぬけてるヤツがいてくれた方が仕事が増える。
千秋　あの人、嫌気がさしてたのね。
ヒデ　……きっとな。
千秋　他には？
優子　他？ 彼女の所持品ですか？
ヒデ　奥田さん。

優子　え？はい。
ヒデ　少し考えたらわかるだろ。手がかりが少なすぎるんだ。

優子、書類を取り出し、コピーを千秋に渡す。

優子　えーっと、彼女の所持品はこれだけです。
千秋　（書類を見ながら）ふむふむ。
ヒデ　どうだ？
千秋　こんなもんでしょ。資産と思い出。金（きん）、宝石、シリコンディスクとタブレット。後は……本？珍しい。
優子　（同じく書類を見ながら）あれ？
ヒデ　ディスクからいくか。
千秋　あ……。
ヒデ　どうした？
千秋　このタブレット端末、ＰＰ８５００だ。いけるかも。
ヒデ　よし。（優子に）持ってきてくれ。
優子　え？
千秋　セキュリティホールがあるってこと。
ヒデ　早くしろ。
優子　わ、わかりました。

優子、はける。ヒデはバッグからノートパソコンと接続コードを取り出し準備している。
千秋の興味は冷凍カプセル。

千秋　まぁ簡単な仕事で良かった。間に合いそうだね。
ヒデ　まだわからんだろ。

千秋戻って。

千秋　ヒデは心配性だなー。大抵はパスワードかエマージェンシーコードがその端末に入ってるって。
ヒデ　まあな。
千秋　ピッポッパっと取り出して。崇高なる科学への殉教オバさんにお目覚めいただいて。
ヒデ　死んでねえっつーの。
千秋　ウチらは報酬をいただいて。

ヒデ　（作業を終えて）これで良し。
千秋　おいしいご飯を食べに行く。

優子戻ってくる。

優子　お待たせしました。

優子、端末をヒデに渡す。

千秋　（優子の真似で）遅刻ですよ。
優子　え？
千秋　焼肉たべたーい。
ヒデ　それくらいにしとけ。
優子　お願いしますね。
千秋　まっかせといて。私とヒデに突破できなかったセキュリティなんてこの世に、
ヒデ　たまにあるだろ。
千秋　解凍日当日にパスコードがない事に気付く人が悪い。
優子　いや、記録では確かにあのボックスの中にあると。

千秋は聞いていない。ヒデ、受け取った端末をパソコンに接続し、操作している。

優子　ちょっと、聞いてます？
千秋　ピッポッパ。
優子　古臭い。
千秋　え？
優子　今日びそんな音がする電子機器ってありませんよ。
千秋　（驚いて）はっ！？

ヒデ、コンピュータをのぞきこんでいる。

ヒデ　このリスト……。
優子　中、見られました？
ヒデ　……三次元動画？
千秋　動画？
ヒデ　いや、違うな。……何だこれは？（つぶやいて）神崎ハル……ハルさん……。
優子　再生してみましょう。

ヒデ　しかし……。
千秋　もしかして、これがお探しの「鍵」なんじゃないの？
ヒデ　かもしれんが、
千秋　いいからいいから。(パソコンのキーを押して)ピッポッパっと。

オープニングアクト

▽2場

幕が開き、動画の世界になる。神崎家自宅リビング。休日の夕食後。ハルと由紀夫がテーブルについている。達樹はソファーで本を読んでいる。ストップモーション。ハルにスポットライト。

ハル　私の名前は神崎…ハル…です。私の記憶。遠い昔の思い出なのか、昨日の事なのかもはっきりしません……。幸せな家庭。私は温かい家族に囲まれていました。

舞台が明るくなり、皆、動き出す。

由紀夫　なんだ、達樹は行かないのか。
達樹　あー……うん。
ハル　何か用事があるの？
達樹　うーん……まぁ。
ハル　はっきりしないわね。
由紀夫　何があるんだい？
達樹　（本を閉じて）まあいいじゃん。ね。
由紀夫　残念だな。久しぶりに家族そろって行けると思ったのに。
ハル　そうね。その用事は延期できないの？
達樹　ごめん！
ひなた　ただいまー。
ハル　ひなちゃんね。
ひなた、入ってくる。仕事帰り。
ハル　お帰りなさい。

由紀夫　お帰り。今日は早かったな。
ひなた　先週残業が多かっただけよ。
ハル　ご飯は？
ひなた　どうしようかな。まだお腹空いてないかな。
ハル　じゃあ冷蔵庫入れちゃうわよ。
ひなた　うん。

なんとなく空気が変。

ひなた　どしたの？なんかあった？
由紀夫　ああ、来月の旅行。
ハル　達樹が行けなくなったって。
ひなた　わかった！タツ、あんた彼女できたんでしょ？
達樹　ねーちゃん！
ハル　あら、そういう事なの。
由紀夫　ははぁ。そういう事なのか。
ひなた　最近やけにスマホ気にしてたもんねぇ。どんな子？どこで知り合ったの？
達樹　学校のサークルで。
由紀夫　年下か？
達樹　あ、いや、同い年だよ。
ひなた　ふーん。ふーん。ふーん。
達樹　なんだよ。
ひなた　写真見せてよ。無いの？
達樹　え、あ、無いよ。
ひなた　はい、うそー。
由紀夫　あははは。
ハル　お母さん、興味あるなぁー。
ひなた　タツ、観念しろ！
由紀夫　観念しろ！
達樹　もぉおおお。

ハル、達樹のスマートフォンを持ってくる。

ハル　隊長！容疑者の携帯情報端末機器を押収しました。
達樹　母さん！
ひなた　よろしい。

ひなた、達樹に携帯電話を押しつけて。

ひなた　はい。ロック解除。
達樹　わかったって……
ひなた　早く早く。
達樹　ほら。この子。
ハル　あら、かわいい子じゃない。
ひなた　ホント。タツにはもったいない！
由紀夫　お父さんがプレゼントした「モテ遺伝子」がやっと目覚めたんだな。
ハル　はいはい。
達樹　旅行の日、彼女の誕生日なんだ。
ハル　あら、そうなの。
ひなた　かわいい彼女の誕生日と家族旅行じゃ勝負にならないわねぇ。
ハル　そうねぇ。
由紀夫　彼女も一緒に来たらいいじゃないか。
達樹　やめてよ。まだ付き合い始めたばっかりだよ。重いって。
ひなた　あはは。
ハル　でも、４人で予約しちゃったんでしょ？
由紀夫　ああ。再来月から隔週連載が始まるし、旅行延期はなぁ……。
ハル　しょうがないわよ。今年は３人で行きましょう。
ひなた　私はお母さんと大きなお風呂に入って、おいしいお酒が飲めれば幸せだけどさ。キャンセル料だって……ね。
達樹　ごめん。来年は一緒に行くからさ。
由紀夫　佐野君でも誘うか。
ハル　いいわね。聞いてみたら？
由紀夫　３連休だし、どうだろな。
ひなた　え？英治さん来るの！
ハル　(笑って)今度は ひなた？
由紀夫　なんだなんだ２人とも。知らないうちに大人になったな。
ひなた　いつまで子供扱いしてるのよ。
達樹　そうそう。
由紀夫　昔は旅行に連れて行けってお前が一番うるさかったんだぞ。

由紀夫、電話をかけ始める。

ハル　ひなちゃんは嬉しそうね。
ひなた　えへへ。
達樹　ねーちゃんの佐野さん好きは今に始まった事じゃねーし。
由紀夫　出ないな。
ひなた　えー。
達樹　乙女かよ。
ひなた　乙女だよ！
達樹　乙女はあぐらかかない。
ひなた　乙女だっていびきもあぐらもかくし。
由紀夫　ダメだ。明日また聞いてみよう。

由紀夫が諦めて電話を切るとすぐにチャイムが鳴る。

佐野　こんばんはー。
ハル　はーい。
ひなた　英治さんだ！
達樹　え？マジで？

ハル、出迎えに玄関へ。ひなたは自室に。

由紀夫　達樹、ちょっとテーブルの上、片付けるぞ。
達樹　あいよ。

佐野、ハルに連れられて入ってくる。

佐野　こんばんは……。あ、先生、遅くにすみません。

ハルが由紀夫に変わり片付け始め、由紀夫が応対する。

由紀夫　まだそんな時間じゃないだろ。ああいやいや、ちょうど佐野君に電話してたところだ。
佐野　え？（携帯を取り出して）あ、ホントだ。すみません。マナーモードのままで気付かなかった。
由紀夫　ハル、お茶出してくれ。
ハル　はいはい。佐野さん、緑茶と紅茶どちらにします？
佐野　（汗を拭きながら）あ、いや、おかまいなく。
ハル　冷たいお茶にしますね。

佐野　恐縮です。

ハル、片づけながら。

ハル　あら？ひなちゃんは？

達樹　さぁ……。整形でもしに行ったんじゃない？

ハル　はぁ？

由紀夫　今日はどうした？〆切りは来週だろ？

佐野、鞄の中を漁りながら。

佐野　いや、ちょっと近くまで寄ったんで。

由紀夫　なんじゃそりゃ。

達樹　あれじゃないの？ほら、駅前の。

由紀夫　ああ、

佐野　ご明察！

由紀夫　掘り出し物でもあったのか？

佐野　ええ。月光仮面のハードカバー版が入荷したって聞いて。

由紀夫　月光仮面？

達樹　何それ？また特撮？

佐野　そう！その原作本。彼は日本最初の正義の味方ですよ！

達樹　へぇ……。

佐野　聞いたことない？（歌って）どーこのだーれかは知らないけーれーど。だーれもがみーんな知っているー、

由紀夫　えーっと、おい、佐野君。

佐野　あ、すみません。

由紀夫　相変わらずだな。何か用があったんだろう？

佐野　そうでしたそうでした。えーっと、あったあった。これです。

由紀夫　ん？

佐野、鞄から取り出した書類を由紀夫に見せる。

ハルはお茶を持って戻って来る。達樹はソファーへ。

ハル　どうぞ。

佐野　や、恐縮です。

達樹　部屋、行ってようか？

佐野　あ、いや、大丈夫。ごめんね。
由紀夫　映画？
佐野　はい。映画って言っても原作書いて欲しいんです。でかいスポンサーがついてるみたいで、原稿料、破格ですよ。後ここ、すごくないですか？コールドスリープ。
由紀夫　ほぉ、そんなことができるのか。
佐野　昔あったでしょ？コーラか何か飲んで宇宙旅行に行こう！ってキャンペーン。ああいうヤツですよ。
達樹　ペプシの当たった人って、結局お金もらっておしまいじゃなかったっけ？
佐野　『未来への旅にご招待』ですって。
由紀夫　未来？俺は遠慮しとくよ。
佐野　先生が行く訳じゃないですって。これ、結構かかってるみたいですよ。こっち。
由紀夫　いかにも宣伝になりそうな話だ。
佐野　そうそう。きっと売れますってこの映画。そしたら先生も
由紀夫　映画の原作ねぇ……。書けるかなぁ……。
佐野　去年の作品なんか映画になりそうだ。
達樹　ああ、田舎の食堂の娘さん達が奮闘する話？
佐野　そうそう。
達樹　（笑いながら）ならないでしょ。

由紀夫、渡された書類を読み終わる。

由紀夫　やめとこう。
佐野　先生―。
由紀夫　原案アリ。かっこＳＦって書いてあるじゃないか。
佐野　ええ、ですから新作で、僕、得意分野ですよ！
由紀夫　佐野君は得意かもしれんが……俺は所詮ゴシップライター上がりの下品な物書きだ。
佐野　何をおっしゃってるんですか！日本を代表するノンフィクション作家、神崎由紀夫先生！
由紀夫　ＳＦのエフはフィクションのエフだぞ。
佐野　しかし、以前はそっちも、

▽３場

ひなたが別人のように着飾って部屋から出て来る。

ひなた　英治さん、いらしてたんですね。
佐野　や、こんばんは。随分と、その……あ、お出かけ？
達樹　気合い入れすぎでしょ。
ひなた　さっき帰ってきたとこなんです。お茶でも出しますね。
ハル　もう出てるわよ。
ひなた　あ。
達樹　ねーちゃん、こっち座ってなって。

ひなたは佐野のそばへ。

ひなた　父とお仕事の話ですか？
佐野　今お父さんにふられたばっかり。
ひなた　あら。
佐野　こんなおいしい話そうないですって。お答え、今じゃなくて良いんで考えといてくださいよ。
由紀夫　断ったつもりなんだがなぁ。
佐野　お願いしますよ。ウチもそろそろ売れる本、出さないと苦しいんですよ。
由紀夫　……ああ、わかったよ。
ひなた　英治さん、大変ですね。いつも父に振り回されて。
由紀夫　おいおい。
ひなた　今の会社で良かったー。就活の時は出版社と悩んだけど、大人になってから英治さん見てると、つくづくやめといてよかったって思うわ。
ハル　ひなちゃん、言い過ぎよ。達樹は目指してるんでしょう？出版。
達樹　うん。まあ。
佐野　そうでしたか！
ハル　うちの子達、二人とも佐野さんが好きなんです。あこがれちゃって。
達樹　母さん！
ひなた　お母さん！
佐野　達樹君は本が好きかい？
達樹　ええ。読むばっかりですけど。
佐野　僕の名前はね、有名な小説家からとったんだ。
由紀夫　ああ、もしかしてあの、
佐野　はい。オヤジが大ファンで。英雄の英、英語の英で英治。（達樹に）ね？
達樹　えっと、「治」の方は？
佐野　一時（いっとき）、僕も書いてみることにハマりましたけど、所詮は大学の趣味サークル止まりで

すよ。才能の方が、ね（笑）
ひなた　ホント、最高の名前ですよね！
達樹　最高とは。
佐野　デジタル化の波が押し寄せて最近はあんまり元気ないけど、本はいいぞ！
達樹　ですよね。
佐野　特撮もそうなんだ。今どきは何でもかんでもＣＧでやっちゃうからね。アナログでしかできない微妙な表現が例え嘘っぽかったとしてもそれは本物の嘘であって、

一同やれやれといった感じ。

ひなた　（同時に）ところで英治さん。
ハル　（同時に）ところで佐野さん。
佐野　あ、失敬。

母娘目を合わせて笑う。

ひなた　来月の三連休、温泉旅行、行きません？
ハル　石川の。達樹が急に行けなくなってしまって。
由紀夫　あーそうだそうだ。それで電話したんだった。
佐野　石川県かぁ。
ひなた　（歌って）金沢ステーションデパート。
由紀夫　いいところだぞ。
佐野　加賀温泉です？
由紀夫　まぁ、近くだ。
佐野　三連休ですね。えーっと……。

佐野、予定を確認する。

ひなた　いかがですか？
佐野　えー……、一応大丈夫です。連休に入ってた予定は「燃えないゴミをまとめる」の１件だけでした。
ひなた　やったー！
達樹　それってどうなの？
佐野　でも、いいんですか？僕なんかがお邪魔しちゃって。
由紀夫　今からじゃキャンセル料だけ取られて馬鹿らしいだろ。
ハル　３人じゃさみしいわねって話してたところなの。

佐野　神崎先生ってホントに旅行好きですよねぇ。
由紀夫　まぁな。
佐野　あれ？そう言えばこないだも金沢……その前は福井じゃなかったです？
由紀夫　良く覚えてるな。
佐野　先生のスケジュールを把握するのも編集者の仕事ですから。

由紀夫、一瞬家族を見る。ハル、軽くうなずいて。

由紀夫　昔、家内が記憶を無くした事は知ってるだろ？
佐野　え？あ、はい。
由紀夫　６年前、取材も兼ねて北陸に行った時、
ハル　思い出したんです。断片的に、ですけど。
佐野　え？
ハル　車から海を見てたら急に。初めから不思議と懐かしいなって思ってたんです。
佐野　……。
ハル　あ、ここ、知ってる！って。
佐野　へぇー
ハル　子供の頃、臨海学校とかそういうのだと思うんですけど、何かの集合時間に遅れそうになった事を思い出したんです。
佐野　そうなんですねぇ。
ハル　私、ホントに嬉しくて。驚いて。結局、その日はそれだけしか思い出せなかったんですけど。
ひなた　以来、お父さんとお母さんは暇ができるとあの辺りに旅行、行くんです。
由紀夫　お前達も連れてってるだろ。
ひなた　そうでした。
由紀夫　もう２０回近くになるか。場所は絞れていないが、少しずつでも何かわかるといいと思ってな。
佐野　そういうことでしたか！
達樹　さ、佐野さん？
佐野　水臭いですよ、先生。どうして今まで教えてくれなかったんですか。
由紀夫　まぁ家庭の事情だからな。
佐野　わかりました。オトコ佐野英治、やっと先生に恩返しする時が来ました。喜んでオトモさせていただきます。
由紀夫　いや、そこまでの話じゃあないんだが……。まぁゴミまとめてるよりいい連休だろ。
ひなた　ゴミなんて、言ってくれたら私が、

佐野　達樹君はどうして行かないの？
達樹　ああ、えーっと、
ハル　達樹は彼女とデートですって。
佐野　そういうことでしたか！
ハル　お年頃なのよね。
達樹　母さん！
ひなた　ねぇ、お父さんとお母さんってどこで知り合ったの？
ハル　え？
由紀夫　俺達か？
ひなた　うん。今まで聞いたことなかった。
達樹　息子としても、興味あるなぁー。

▽4場

ハルにスポットライト。

ハル　由紀夫さんとの出会い。２５年前の冬でした。明け方、私は日本海の浜辺で倒れていたそうです。大怪我をして。どうして……。由紀夫さんが見つけてくれなかったらどうなっていたんでしょうね。それから1年経って。

回想。由紀夫とハルがいる。病院のロビー。

由紀夫　結構待たされますね。
ハル　ホント。検査入院なんて予めわかってるはずなのに。
由紀夫　お体の方はもう、その、大丈夫なんですか？
ハル　おかげさまで。もう1年も経ちますから。
由紀夫　良かった。
ハル　今はリハビリと、（頭を指して）こっちの検査ばっかりです。
由紀夫　えっと……、まだ？
ハル　はい。なーんにも思い出せません。
由紀夫　そうですか。
ハル　（笑って）正直言って、もう諦めてます。
由紀夫　何かお力になれることがあれば、
ハル　十分ですよ。あ、病院代、ありがとうございました。ちゃんとお返ししますから。
由紀夫　あ、いや。

ハル　見ず知らずの私にこんなにしていただいて。
由紀夫　これも何かの縁ですから。
ハル　本当にありがとうございます。
由紀夫　いえ。その、えっと……ああ、それにしても遅いですね。
ハル　（笑って）ええ。
由紀夫　もう２０分は経ちますよ。

沈黙。

ハル　過去がわからないって……すごく怖いんです。
由紀夫　……。
ハル　交番の前に張り紙、あるでしょ？
由紀夫　この顔にピンと来たら１１０番？
ハル　私がいたらどうしようって。
由紀夫　警察でちゃんと身元調査してるハズですから。
ハル　こうしている間にもどこかで誰かが私を探してくれているのかしら。それとも天涯孤独に生きてたのかしら。
由紀夫　そんな、
ハル　あは。ご飯の炊き方や切符の買い方は覚えてるんですけどね。
由紀夫　……。
ハル　ごめんなさい。弱音ばかり聞かされたら御迷惑ですよね。
由紀夫　そんなことありません。
ハル　でも……。
由紀夫　どうしました？
ハル　ほら、私といたら彼女さんが。
由紀夫　彼女？
ハル　ええ、いらっしゃるのかと。
由紀夫　いませんよ。（間）あれ？これって褒められてるのかな？
ハル　ふふ。そのつもりです。神崎さん、モテそうですし。
由紀夫　だと良いんですけど。フラれましたよ。
ハル　あら、悪い事聞いちゃいましたね。
由紀夫　いえ、いいんです。もうずいぶん経ちますよ。１年かな。……仕事柄出張が多くて、僕。
ハル　ルポライターさんですもんね。
由紀夫　あの日、仕事が早く終わったんです。そのまま横浜に帰ってもよかったんですけど、

ちょっとした旅行気分をと思って宿取って彼女を呼んで。レンタカーでドライブしてたんです。でも、ささいなことでケンカになっちゃって。

ハル　そう、ですか。

由紀夫　そのまま彼女、居なくなっちゃいました。

ハル　ひどい。

由紀夫　仕事ばかりで全然かまってあげられなかったですし、仕方ないですよ。

ハル　いやいや、ちゃんとお話しして別れるべきですって。

由紀夫　すみません。変な話、しちゃいましたね。

遠くから呼び出しの声が聞こえる。

声　３０８番の番号札をお持ちの方、お待たせしました。窓口までお越しください。

ハル　あ、やっと。

ハル、歩き出すところを由紀夫が呼び止める。

由紀夫　あの。

ハル　はい？

由紀夫　あ、いや、あの、そういうアレじゃなくて。

ハル　どうしました？

由紀夫　……退院したら一緒に食事に行きませんか？

ハル　はい。

▽５場

過去。由紀夫の自宅。達樹とひなたは高校生。ひなたが電話を切る。

ひなた　お父さんとお母さん、もうしばらく向こうにいるって。

達樹　ふーん。いつまで？

ひなた　２、３日って言ってたけど。

達樹　ああ、母さん、また思い出したの？

ひなた　うん。みたい。

達樹　そっかそっか、良かった。えーっと、今回は富山か。

ひなた　やっぱりあの辺なんだね。お母さん。

達樹　そうだね。

ひなた　３回目だもん。
達樹　姉ちゃん、夕飯どうする？
ひなた　うん……。
達樹　ん？姉ちゃん。
ひなた　あ、ごめんごめん。タツさ。
達樹　何？。
ひなた　あんたは私の弟でしょ？
達樹　は？そりゃそうだよ。
ひなた　本当にそうかな。
達樹　はぁ？何言ってんの？
ひなた　私はあんたが赤ちゃんだった頃から覚えてるわよ。
達樹　俺だって。
ひなた　どんなこと覚えてる？
達樹　何だよ急に。
ひなた　いいから。
達樹　そんなこと言われても。
ひなた　なんかあるでしょ？
達樹　あ、５年生の時の誕生日プレゼント。
ひなた　あ。（笑う）
達樹　そう。
ひなた　ゲーム機ねだったら、ファーブル昆虫記全集だったやつ。
達樹　あれはへこんだ。
ひなた　へこむどころかタツ泣いてたじゃん。（笑う）
達樹　野生のキャタピー捕まえたいのに野生のフンコロガシですよ。
ひなた　ポケモンも昆虫採集みたいなもんじゃん。
達樹　全然ちげーよ。

ひなた、急に真顔で。

ひなた　タツ……。
達樹　ん？
ひなた　そういうのってさ
達樹　何さ？
ひなた　そういうのって、全部覚えてるだけよ。
達樹　どういうこと？

ひなた　忘れちゃったら本当にあったことかどうかもわからないの。大好きな人、大事な思い出、友達、家族、全部いっぺんに無くなっちゃう。記憶がなくなるってそういう事だよね。

達樹　想像つかねぇ。

ひなた　今度の旅行でも色々思い出せるといいね。

達樹　飯無い日は続くけどなぁ。

間

ひなた　タツ、晩ご飯作る当番決めるよ。

達樹　腕相撲で？

ひなた　あはは。なにそれ？

達樹　そういう流れでしょー。

ひなた　よーし、わかった、覚悟はいいな？

達樹　ふっふっふ。ゆくぞ。

ひなた　来い！

必殺仕事人の音楽。ひとしきり準備運動後、腕相撲スタンバイ。

ひなた　負けたらお母さん帰って来るまでご飯当番ね。

達樹　勝った方は？

ひなた　洗濯当番。

達樹　どっちがいいんだか。

ひなた　レディ。ゴー！

ひなたの勝ち。

達樹　わああああマジか！？

ひなた　ふはははは！　弱い！弱すぎるわ！

達樹　ねーちゃん……キャラ……。

ひなた　（ジェスチャー）ＵＦＯキャッチャーの　あの、ぐーいんってなる　ここのとこの挟む力位弱いわ！

達樹　それは弱い！

ひなた　（手振りでクレーンを表して）ここね。ここ。

達樹　よし、いけるって思ったのに持ちあがった瞬間落としちゃうヤツね。

ひなた　負けたタツは鎌倉駅前の松林堂書店でエッチな本買って本名で領収書もらうの刑ね。

達樹　何？突然の宣伝？
ひなた　（ゆっくりと）鎌倉駅東口出てすぐ右手。昔もいまも、地域の皆さまから愛される、街の本屋さんとして本をお届けしております。息子が劇団員でございます。でも稽古にはあんまり来ません。
達樹　ってか、あそこ、エッチな本売ってなくね？
ひなた　いいから確かめて来なさーい。
達樹　はぁ？勝手に罰ゲーム増やすなよ！
ひなた　文句言わなーい。

幕が閉まる。
幕前。ヒデと優子、千秋がいる。

千秋　うわぁ。おもーい。しりあすー。
ヒデ　勝手に触るなって！
優子　い、今のは？
ヒデ　ああ？自己紹介してただろ？
千秋　（かわいく）私の名前は神崎ハルです。
優子　そういうことじゃなくて。
千秋　松林堂書店の方？　鎌倉駅東口出てすぐ右手。昔もいまも地域の皆さまから愛される……
優子　（無視して）どういうことですか？
ヒデ　仕組みは俺にもわからん。
千秋　千秋にもわからん。
優子　彼女の想いが？
ヒデ　だろうよ。お役人ってのは、わかりきった事を確認してたら飯が食えんのか。
優子　そんな訳ないじゃないですか！
千秋　おばちゃん、記憶喪失だったのね。
ヒデ　そうみたいだな。
優子　ともかく、これでハルさんは目覚めるんですね？
ヒデ　ああ、多分。（画面を見て）あ、いや。まだみたいだ。
優子　え？
ヒデ　パスコードなんて最初からなかったんだろ。この映像が解除のカギになってるのは確かだ。ほら、ここ。
千秋　ホントだ。
ヒデ　酔狂なヤツもいたもんだ。

優子　ジェネレイティングキー。インプログレスって。
千秋　キー生成中。
優子　それ位わかりますよ。
千秋　で、続きは？
ヒデ　えーっと。これか。
千秋　早く早く。
ヒデ　急かすなって。
千秋　さくっと終わらせてさくっと帰ろう。
ヒデ　はぁ……。
千秋　（パソコンのボタンを押して）ピッポッパ。

▽6場

幕が開く。（または舞台が明るくなる）
セットはアレンジされて旅行先の温泉旅館ロビー。お昼時。るり子、希、絵梨が働いている。

絵梨　あ、今日1組キャンセル出てるから、宿帳確認しといて。
るり子・希　はーい。わかりました。
絵梨　広間の方はＯＫと。
るり子　（書類を見ながら）あれ？今日宴会ってあったっけ？
希　無かったんじゃない？
絵梨　無いわよー。

足音がしたようだ。絵梨が気にしている。

絵梨　お客様来るわよ。希もるり子もしゃんとして。
るり子・希　はーい。

佐野、由紀夫が入って来る。

絵梨　おはようございます。昨日は御迷惑おかけしました。
由紀夫　え？
絵梨　エアコン、先月の点検では問題なかったんですけど。
由紀夫　ああ、あの雨でしたからね。
佐野　何かあったんですか？

由紀夫　そうか。君は早々に酔っぱらって寝てたからな。
佐野　いやぁお恥ずかしい。今朝はいい天気でよかった。
絵梨　ご不便をおかけしました。あいにく空いているお部屋もなくて。
由紀夫　今日はもう大丈夫なの？
絵梨　ええ。今修理させていますんで。
由紀夫　そうでしたか。えーっと……。
絵梨　申し訳ありません。朝食の時間は過ぎてしまいまして、
由紀夫　ああ、いえ。僕は朝、めったに食べないものですから。とはいえさすがに寝すぎたかな。
佐野　僕も少し飲みすぎてしまってご飯は……。いやぁお恥ずかしい。
絵梨　すみません。あ、奥さま達は朝食の後、お散歩にお出かけになられましたよ。
由紀夫　じゃあ急いで行っちゃおうか。
佐野　ですね。お戻りになる前に。（絵梨に）露天風呂ってこっちでしたっけ？
絵梨　はい。出ていただいて右手の先です。男性は手前側に脱衣所がございます。
るり子　御案内しましょうか？
佐野　ああいえ。それには及びません。恐縮です。
希　わかりました。
由紀夫　ありがとう。
るり子・希　いってらっしゃいませ。
由紀夫　（一礼し、佐野に）お昼は岬の方まで行こうか。
佐野　そうですね。

佐野、由紀夫話しながらハケていく。

るり子　どっちの人？
希　おじさんの方だってば。
るり子　意外とふつーのおじさんだね。
希　すごい先生なんだから。
絵梨　何の話？
るり子　作家先生。
希　神崎先生なんですよね？
絵梨　ええ。そうね。……お客様の噂話はやめなさい。
るり子・希　はーい。
絵梨　旅館の品性が疑われますよ。
るり子・希　はーい。

るり子、希が同じ動きをしてる。

絵梨　さっきからあなた達、双子みたいね。
るり子　双子ですから。
絵梨　全然似てないのに。
希　そりゃ色々事情ってもんがあるんです。
絵梨　事情？
るり子・希　双子が出て来て同じセリフ言ったら面白いんじゃない？ってワガママ言った人がいるんですよ。双子の劇団員なんていないのにー。
絵梨　は？
るり子・希　どれだけ稽古が大変だったかわかります？一言一句間違えられないんですよ？
絵梨　そ、そうなんだ……。
るり子・希　わかりました。稽古の成果、見せます！
絵梨　は？
るり子・希　東京特許許可局。東京特許許可局。東京特許許可局。生麦生米生卵。生麦生米生卵。生麦生米生卵。
絵梨　（なぜかノリ気で）もっと早く！
るり子・希　かえるひょこひょこ三ひょこひょこ。合わせてひょこひょこ六ひょこひょこ。
絵梨　もっと！
るり子・希　青巻紙　赤巻紙　黄巻紙　赤巻紙　黄巻紙　青巻紙　黄巻紙　青巻紙　赤巻紙。
絵梨　（拍手）がんばったねぇ。
るり子・希　ありがとうございます！
絵梨　確かにちょっと似てる気がしてきた。
るり子　でしょー？
希　あと一声！
絵梨　そっくりだなぁー……どっちがどっちか見わけがつかないなー。

るり子と希、目を合わせてガッツポーズ。

るり子　押し切ったね。
希　勢い大事だね。
るり子・希　双子って神秘的でいいよねー。
絵梨　そろそろ仕事に戻りなさい。
るり子・希　はーい。

▽7場

3人は仕事をしている。しばらく経って外からハル、ひなたが入って来る。

絵梨　おかえりなさいませ。
ひなた　戻りましたー。
絵梨　昨日は申し訳ありませんでした。
ハル　大丈夫ですよ。お借りした扇風機で十分でした。
絵梨　修理、まだかかるみたいで。一応お昼頃には終わると聞いてはいるんですが。
ハル　そうですか……。

ひなた、ソファーに座る。

絵梨　すみません。お部屋代わられますか？お預かりしてるお荷物、使えないとご不便ですよね。
ハル　えーっと……。
ひなた　別にいいじゃん。どうせ部屋にいないんだし。
ハル　そうね。（絵梨へ）じゃあ予定早めて出かけちゃおうかしら。
絵梨　恐れ入ります。
ハル　黒いバッグだけ持ってきてもらってもいいかしら。
絵梨　かしこまりました。お持ちしますね。るり子。
るり子　はい。黒いバッグですね。

るり子、バッグを取りに行く。ハルもソファーへ。

ひなた　私、英治さんとお父さん起こしてくるよ。
ハル　うん。
希　あ、お連れ様方はお風呂に行かれましたよ。
ひなた　そうなの？
希　はい。
ハル　どうしようかしら。

佐野と由紀夫が帰ってくる。絵梨と希は掃除中。

由紀夫　おお、帰ってたのか。

ひなた　英治さん、おはようございまーす。
佐野　ああ、おはよう。
由紀夫　おいおい。俺は？
ハル　まあまあ。
由紀夫　家にいる時とはまるで別人だな。
ひなた　そんなことないって。
ハル　女の子ってそういうものなんですよ。
由紀夫　あーやだやだ。
ハル　（笑って）言っても仕方ないでしょ。
佐野　女の子ってそんなもんなんですねぇ。
ひなた　英治さんまでー。
佐野　失敬失敬。
ひなた　あ、お父さん。
由紀夫　ん？
ひなた　今日どこだっけ？何とか岩、観に行くんでしょ？少し早めに出よ。
由紀夫　ああ、何かあったのか？
ひなた　お部屋のエアコン治してもらってるの。
由紀夫　今座ったばっかりなんだけどな。
希　すみません。
ひなた　はーやーくー。
由紀夫　わかったわかった。（佐野に）行こうか。
佐野　はい。

佐野と由紀夫自室へ。

ひなた　お母さん、何とか岩ってなに岩だっけ？
ハル　えーっと……。
希　二見（ふたみ）岩ですか？
ひなた　そうそう。それそれ。
希　二見まで行かれるんですね。なーんにもないとこですよ。
ひなた　岩だしね。でも、いざという時には他の岩と合体して世界の危機を救う！なんてことがぁ……。
希　ありません。
ひなた　だよねぇー。

るり子、バッグを持って戻って来る。

るり子　お待たせしました。すみません。遅くなって。どうぞ。
ハル　ありがとう。重かったでしょう？

ハルとひなたはバッグからカメラなど取り出している。

るり子　とんでもないです。
希　どこでサボっててたの？
るり子　修理、終わりそうか聞いてきたの。
希　なるほど。
絵梨　どうだって？
るり子　やっぱお昼頃って。
希　お昼頃って一体何時だっつーの。
るり子　ねぇ。

ハルとひなたが準備を終えた所にるり子、希が話しかける。

希・るり子　あのー……。
ハル　はい。
希・るり子　お連れ様って、あの神崎先生ですよね。
ハル　あ、ええ。
希　わぁ！
るり子　やっぱり！
絵梨　２人とも、失礼でしょ！
ひなた　いいんですよ。逆にありがたいですよ。
希　私、先生のファンなんです。「罪という名のもとに」が特に好きで！
るり子　私もー。
希　嘘くさっ！
るり子　何でよー。
ハル　ありがとうございます。主人に直接言ってあげてください。きっと喜びますよ。
希　サイン貰わなきゃ。
るり子　あー！本持ってくればよかった！
希　そっか、しまったー。
絵梨　本当によろしいんですか？
ハル　ええ。読んでくれる方あってこそっていつも言ってますから。

絵梨は仕事に戻るが双子たちは大喜び。由紀夫と佐野戻ってくる。

由紀夫　お待たせ。
希・るり子　きゃー！
佐野　ん？どしたの？
ハル　お二人とも。神崎センセイのファンなんですって。
希・るり子　はい。
佐野　なるほど、さすがですね。
由紀夫　本当かい？
希・るり子　はい！
由紀夫　それは嬉しいね。こんな若い子も読んでくれてるのか。
希　私、小説家になりたくて。
佐野　へぇ。そうなんだ。
希　先生の作品で勉強させてもらっています。
るり子　私もー。
希　はぁ？　るり子小説なんて書いてないじゃない。
るり子　大丈夫よ。バレないわ。私達、完璧な双子なんだから。

るり子、シンクロする動きをしようとするが、希は無視。

希　どうやったら先生みたいに素敵な作品が書けるんですか？
由紀夫　素敵かどうかはわからないが、たくさん読んで、たくさん文章を書くことじゃないかな。書いたらどんどん賞に応募するといい。（佐野に）なぁ。
佐野　そうですね。ウチの新人賞も毎年秋にありますよ。是非応募してください。
由紀夫　彼は出版社の社員なんだ。
希　わぁ！すごい！
佐野　たとえ入選できなくても、担当編集が付くこともありますし。
由紀夫　佐野君みたいな？
佐野　女性の編集者もちゃんといますって。
希　でも、そんな方々に認めてもらえるような作品なんて書けるかなぁ。
るり子　（佐野に）この子、ニュースサイトの記事なんかたまに書いてるんですよ。（希に）そっちは評判いいじゃない。
由紀夫　それはいいね。僕も最初はライターからだったんだ。週刊誌の三文記事やらなんやら……今思うとロクでもない文章ばっかり書いていたがね。
希　ご謙遜を。

由紀夫　あの頃は食えなかったからね、本が売れるように何でもかんでもセンセーショナルに書き立てなければならなかったんだ。

由紀夫が回顧している妙な雰囲気に、希は困ってフォローしようとする。

希　でも、あの、その時は、えっと……それが正しかったんですよ。きっと。

由紀夫　ああ、すまない。つまらない昔話をしてしまったね。

希　とんでもありません。貴重なお話をうかがえて光栄です。あ、今日は取材にお出かけですか？

由紀夫　いや、思い出しに来たんだよ。

るり子　思い出す？

ハル　といっても主人の昔話じゃありません。私、昔の事を覚えていないんです。

絵梨　え？

ハル　記憶喪失で、若い頃のことは全部忘れちゃってるんです。

るり子　そうなんですか……。

ハル　でも、この辺りの景色を見てるとたまに思い出すの。きっと、ここで過ごしていたんだと思うわ。もしかしたら生まれ故郷なのかしら。

るり子　よくこちらに？

ハル　はい。しょっちゅう来てるんですよ。

由紀夫　思い出しに、な。

絵梨　（大声で）そういうことでしたか！

佐野　おおお。

ひなた　なにこれ、流行ってるの？

絵梨　何か私共にお手伝いできることがあれば、なんでもお申し付けくださいね。

ハル　ありがとうございます。

絵梨　今日はどちらに？

ハル　二見岩を見に行こうと思ってるんです。

るり子　二見まで行かれるんですね。なーんにもないとこですよ。

絵梨　でもとってもいい景色ですよ。海沿いの道がこう、片側が山、反対は海になっていて海側は崖なんですけど、その先、海の中に大きな岩があるんです。

希　海鳥が、わーっといます。きっと。

るり子　通り道に少し広い……あれ、なんていうの？

希　瀬野さんとこ？展望デッキ？

るり子　それそれ、展望デッキがありますから、そこでならインスタ映えする写真が撮れるかもですね。

希　田舎のインスタだ。
るり子　で、写真撮ったら3分で飽きます。
ひなた　（笑って）ありがちね。
佐野　でも、いざという時には岩がぱかーっと割れて、中には正義の巨大ロボが！なんてことがぁ……。
ひなた　うんうん。
希・るり子　ありません。
佐野・ひなた　だよねぇー。

▽8場

同日夜。旅館ロビー。絵梨、希、るり子がいる。ひなた、ハルがいる。

絵梨　じゃあ近場で？
ハル　ええ。
絵梨　混んでましたからねぇ。珍しく。
ひなた　ホント。全然進まなくて。車。
ハル　事故でもあったのかしら。
希・るり子　まぁでも、岩なんていつでも見られますよ。
ひなた　そ、そうね。
希・るり子　明日は平日ですし、空いてますって。
ひなた　お二人、双子みたいですね。
希・るり子　双子ですから！
ひなた　え？全然似てないのに？
希・るり子　（大きく息を吸って）坊主が上手に屏風に（坊主の絵を描いた）

絵梨、さえぎって。目でひなたに訴える。

絵梨　双子なんです。ええ。今夜は特に双子なんです。
ひなた　ああ……えーっと……。ですね。はい。双子でした。
絵梨　お察しいただきありがとうございます。一回始まったら長いんです。

佐野、由紀夫入ってくる。

佐野　おまたせおまたせ。

ひなた　英治さーん。
由紀夫　双子がどうとか言ってなかったか？
絵梨　もうそれは結構じゃないですか。
由紀夫　え？ああ、そうか。
佐野　さあやろうじゃないか。白黒つけようじゃないか。
ハル　あらあら。どうしたんです？
佐野　旅館といえば？（順に指さして）
ハル　ビール？
ひなた　お風呂？
由紀夫　１００円玉入れるテレビ？
佐野　ブブー。何言ってんですか、卓球でしょ、卓球！
由紀夫　なるほど。
佐野　女将さん。
絵梨　はい。
佐野　卓球できるって聞いてたんですけど。
絵梨　ええ。
ハル　え？ここで？
希・るり子　もちろんです。
絵梨　希、るり子。
希・るり子　はい。
絵梨　ご案内いたします。

黒子、希とるり子に布を渡し、二人は前面に出て素早く布を広げる。

ひなた　ご案内？
絵梨　こちら、卓球コーナーでございます。
ひなた　こちらって……。
絵梨　何か？

絵梨、目でひなたに訴える。

ひなた　卓球台ってもう少し緑色だった気もしますが……。何？これ？カーテン？

絵梨、再度目でひなたに訴える。

ひなた　ああ……えーっと……。ですね。はい。卓球台でした。

絵梨　ええ。色々なアレでそういう事です。

佐野、スリッパを持ってきてハルに渡す。

佐野　ひなちゃん、リーグ戦の表書いておいてよ。

ひなた　はい。

佐野　女将さんは審判お願いしますね。

絵梨　よろしいんですか？

ひなた　双子のお二人は？

絵梨　今ちょっと席を外しておりまして。

ひなた　大変なのね。

佐野ＶＳハル戦開始。周りの皆は観戦。絵梨が審判をしている。

佐野　いきますよー。（音響）

ハル　えい！（音響）

佐野　なかなか（音響）

ハル　とう！（音響）

佐野　やりますね（音響）

ハル　やあ（音響）

佐野　かくなる上は！

佐野、卓球台を離れてかっこいい動き。

ひなた　英治さんかっこいい！

由紀夫　いやいや、玉はどこいった？

佐野　奥義、大粒虔脩（だいりゅうけんしゅう）熊参丸（ゆうじんがん）！！（すごい音）

ハル　きゃー！（ダメージ音）

絵梨　ワン ラブ。

佐野　ふっふっふ。おっと、大人気なかったか。

希、卓球台布を放り、出て来る。

希　貴様、その技は！

佐野　奇蹟の聖者ダイバ・ダッタから受け継いだ一子相伝の技よ。生まれ故郷、インドの山

奥での長く苦しい修行だった……。
由紀夫　佐野君、春日部出身だろ。
希　私の師匠を倒した男は貴様だったのか！
佐野　ふっ。
希　畜生！一体何人の命をその技の為に吸い取った！
佐野　お前は今までに食ったパンの枚数を覚えているのか？
ひなた　出たー！。
希　勝負だ！私と勝負しろ！
ひなた　でも……（るり子しか支えがいない卓球台を見て）

絵梨、察して希の代わりに布を支える。

由紀夫　あれ？審判は？
ひなた　多分……席外してるじゃないかな。私やるよ。
由紀夫　すごい技だったな。
ハル　（笑って）漢方薬じゃない？
由紀夫　え？
希　行くぞ！
佐野　ほう戦闘力３２２。こんな奴もいたのか。だが所詮俺の敵ではない。

佐野　ＶＳ　希　戦開始。

希　くらえ！（音響）
佐野　ふんっ！（音響）
希　見よ！鹿茸大補湯（ろくじょうだいほとう）！！（かっこいい音響）
佐野　トマッテミエマース（音響）
希　くそっ！　冠心逐瘀丹（かんしんちくおたん）！！（かっこいい音響）

佐野、卓球台を離れてもっとかっこいい動き。

ひなた　また。
佐野　遊びはここまでだ。究極奥義！知柏地黄丸（ちばくじおうがん）！！（すごい音）
希　きゃー！（ダメージ音＆残響）
ひなた　えっと、ワン ラブ。

佐野、希を助け起こす。絵梨とるり子も出てきて見守っている。

佐野　大丈夫かい？

希　ええ。

佐野　久しぶりに熱くなれたぜ。友よ。

希　ふっ。次は負けませんよ。

佐野　いつでもかかってこい。俺は待ってるぜ。

音楽。

由紀夫とハルは少し離れて。

由紀夫　漢方薬？

ハル　（笑って）ええ。漢方薬の名前よ。

由紀夫　ああ！だから「ちばくじおう『がん』」とか「なんとか『『丹』」とか。

ハル　お湯もあったわね。

由紀夫　そういうことか。

佐野　先生、勝負しましょうよ！

由紀夫　おう。（ポーズをとって）太田胃散！

佐野　ほほう、やりますね。

ゆっくりと暗転。音楽が消えて静寂。ハルの声が聞こえる。

ハル　お父さん。お母さん……。やめて！

薄暗い明りがつき、ハルの姿が見える。

ハル　いや、嘘よ。こんなの嘘だわ。

一旦立ち止まり、はけていく。

▽9場

旅館のロビー。暗いまま。ひなたがソファーで呆けている所に佐野が帰ってくる。

佐野　ひなちゃん？

ひなた　あ、ごめんなさい。ぼーっとしてました。
佐野　電気もつけずに。えーっとどこだっけ？

佐野、戻って電気をつける。明転。

ひなた　英治さん……。
佐野　大丈夫かい？
ひなた　はい……。
佐野　何ていうか、その、
ひなた　お母さん、何か、思い出したんですよね。
佐野　そう、かもね……。
ひなた　どうしちゃったんだろう？
佐野　まぁ、一時的な、その、何かだよ。
ひなた　何かって？
佐野　急にたくさん思い出して脳が驚いちゃってるとかさ。
ひなた　……。

るり子が入ってくる。

るり子　こちらにいらしたんですね。
佐野　ああ、悪いね。すぐ部屋に戻るよ。
るり子　いえいえ。ここ、お使いになってくださって結構ですよ。
佐野　ありがとう。
るり子　あの……お食事、どうされますか？
ひなた　今日は要りません。ごめんなさい。
るり子　……わかりました。
佐野　少し食べた方がいいんじゃない？
るり子　そうですよ。腹が減っては戦はできません。
ひなた　お父さんは？
るり子　まだお戻りではないようですが。
佐野　海岸の方の道、ぐるっと見て来るって。
ひなた　私を心配してくれたのね……警察は？
佐野　今日の話だからね。まだあまり深刻に考えてくれてないかもしれないな。
ひなた　そりゃそっか。
佐野　書置きのメモがあったって事は誘拐じゃなさそうだし。
ひなた　……。

佐野　元気出してよ。すぐ帰ってくるって。
るり子　そうですよ。元気出してください。
ひなた　（深呼吸して）はい。そうですね。
佐野　良かった。
ひなた　英治さんとお話ししてたら元気出てきました。
佐野　もうこんな時間だしさ。明日また一緒に探そう。
ひなた　……るり子さん、ごめんなさい。やっぱり晩御飯いただこうかな。
るり子　わかりました。お部屋にお持ちしますか？
佐野　じゃあ僕たちの部屋で食べようか。
るり子　かしこまりました。

るり子ハケる。それぞれ自室に戻ろうとするが、ひなたが立ち止まる。

ひなた　……目が違ったんですよ。
佐野　目？
ひなた　海岸から戻ってきた時のお母さんの目。あんな目初めて見ました。「目は口ほどに物を言う」とかって言いますけど、私、ずっとそんなの嘘だと思ってたんです。
佐野　所詮目は目だからね。目力（めぢから）とか眼力（がんりき）って俗に言われてるのはこの部分の見た目、視覚的情報だけじゃなくって、いわゆる視線の動きとか、まばたきを含んだ動作の情報や、表情筋全体の……（ひなたを見て）あ、失敬。
ひなた　（笑って）続けてください。私、英治さんのそういうとこ嫌いじゃないですよ。
佐野　僕、よくこういう失敗するんだよね。空気が読めないっていうか……考えた事口にしてたら周りがあっけにとられてるんだ。
ひなた　ウソがなくっていいじゃないですか。そういうのも。
佐野　ありがと。そんなことより目の話だったよね。
ひなた　あ、はい……。なんだっけ？
佐野　あはは。
ひなた　もー！ 忘れちゃったじゃないですか。
佐野　ごめんごめん。
ひなた　……英治さん。
佐野　ん？
ひなた　ありがとうございます。
佐野　僕は何もしてないよ。
ひなた　ううん。

いい雰囲気のところに絵梨、電話を持って入ってくる。

絵梨　神崎さん！

ひなた　はい。

佐野　どうしました？

絵梨　警察からです。奥様が、

佐野　ハルさん？

ひなた、電話を受け取って。暗転。

▽１０場

ハルが取り戻した記憶。（各シーンに役者板付き。ハルが動いていく）

ハル　私は思い出しました。由紀夫さんと出会う前の記憶を。子供の頃から順に。少しづつ、長い時間がかかったように感じたけれど、一瞬だったのかもしれません。

回想①　幼少期

両親が見える。ハルの声は届かない。

父　すまない。やはり出張になってしまいそうだよ。

ハル　お父さん。

母　忙しいのはわかってるけど、なんとかならないの？秋穂が可哀そうよ。イブ当日じゃなくても、

ハル　お母さん。

父　わかってるよ。だからこうやってプレゼントを、

母　モノじゃない。プレゼントはおまけよ。

父　ああ……。

母　先月あの子と約束したでしょう。秋穂はちゃーんと守って毎日お手伝いして、宿題やったわよ。あなただって、

父　わかった。

母　あなた。

ハル　覚えてる。ドアの隙間から聞いていたの。

父、電話をかけ始める。

父　ああ、私だ。今朝の話の件だ。ああ。年末の出張、すまんが私は行かれないよ。先約があった。

母　ありがとう。

父　（電話中）ああ、先方が乗り気でね。約束を違えるわけにはいかないんだ。……そっちの件は君たちに任せるよ。うん。

回想②　中学生

友人２人と学校での定期テストの帰り道。どこかに座って話している。

友人１　秋穂は星城女子でしょ？祥子は？

友人２　星城は無理だろうなぁ。うち貧乏だし。

友人１　その前に点数が足りてないでしょ！

友人２　バレたか。

ハル　祥子と亜由美……。

友人１　バラバラになっちゃうね。進路。

友人２　まだ卒業もしてないのに。

友人１　そうだけどさ。

友人２　高校行っても　また集まればいいじゃん。ここにいるんでしょ？

友人１　うん。そうね。……楽しかったなぁ。

友人２　思い出モードかよ。

友人１　ただ覚えていたいの。この夏を。

友人２　わー、それなんていう映画。

友人１　（映画の予告編ぽく）２０１９年夏、日本を感動の嵐が襲う。

友人２　（映画の予告編で感想言う人っぽく）「号泣しました」

友人１　「俺の全てをかけてお前を幸せにする。」

友人２　「この瞬間をお前と生きていたい。」

友人１・２　「ただ、覚えていたいの。この夏を」

友人２　カミングスーン。

２人笑う。

友人１　ファミレス寄っていこうよ。

友人２　いいねー。秋穂、行こ。

友人１　次の映画ネタ考えようぜ。

友人２　えー　私、間違い探しに忙しいんだけど。
友人１　あれ意外と難しいよね。

２人ハケていく。

回想③　大学生ごろ
また両親が見える。父親は週刊誌を持っている。母は泣いている。とても暗い。

父　おしまいだ！
母　あなた。
父　あることないこと書きやがって。
母　どうしてこんな記事が。
父　ねつ造だよ。
母　本当に？
父　ああ、濡れ衣だ。こんな団体との関係はないし、そもそも、

電話の音。

母　あなた。
父　ほおっておけ。
母　……本当に潔白なら説明してわかってもらいましょうよ。
父　もう、遅いんだよ！

電話切れる。

父　この、根も葉もない作り話で、融資の話は全部立ち消えた！ 明後日までに現金がなけりゃ決済できない手形が、
母　待ってはもらえないの？ ほかにも銀行は、（あるじゃない）
父　手遅れなんだ。
母　そんな。私たちはどうなるの？秋穂は？学校だって、
父　手遅れなんだよ。
母　……。
父　全部終わってしまった。このでっち上げ記事の、「神崎 由紀夫」のせいで。
ハル　やめて！

回想④
ハルだけに照明。記憶の中の声が同時に聞こえてくる。

声　瀬野さん、瀬野さん。週刊春秋です。
声　賄賂渡してたんですよね？
声　テレビ石川です。検査データを改ざんされていたとの事ですが。
声　瀬野社長には説明する義務があるんじゃないですか？
声　いるのはわかってるんですよ！
声　あ、秋穂さんですね。お父さんいるかな？

間。

声　瀬野さんの会社、やっぱり悪い事してたのね。
声　前々からあのウチは何かあるって思ってたのよ。
声　道理で羽振りが良いわけよね。

一瞬の間があって。

由紀夫　１０年以上に渡る検査データの改ざんと隠蔽。当該監査機関の権力者が所属する政治団体への多額の不正献金疑惑。

回想⑤　２０代前半
興信所か。怪しげな男が角封筒を持っている。ハルの声は届かない。

男　これが調査結果ね。（封筒を渡そうとして）ああ、ちょっと待った。
ハル　いや、嘘よ。
男　ああ、銭はちゃんと受け取ってるって。オジサン、親切心で言ってあげてんだよ。
ハル　知らない。知らないわ。
男　確かに、嬢ちゃんの手が後ろに回ろうが、野垂れ死のうが、この神崎さんがどうなろうとオジサンの知ったこっちゃねえ。
ハル　こんなの、嘘だわ。
男　でもな、オジサンになるとわかんだよ。お嬢ちゃん位の歳じゃどうしても許せなかったことがいつの間にか許せるようになる、そんな時ってのがちゃーんと来るんだ。そういう風にできてんだよ。
ハル　……。
男　ガキの頃にゃ殺したいほど憎かったヤツが、今となっちゃ「どうでもいいヤツ」に

なってねぇか？
ハル　……。
男　わかったわかった。渡すよ。渡すから、ったく……最初に言ったこと忘れんなよ。
ハル　ああ……。
男　正義なんていつ裏返るかわからねえんだぜ。

男、コイントス。暗転。

▽１１場

幕前にヒデと優子、千秋がいる。

優子　ハルさん、思い出したんですね、秋穂さんか……。
ヒデ　どっちでもいいだろ。
千秋　まーだー？　早く解除して帰ろうよー。春でも秋でもいいからさぁ。
優子　あと少しですから。（画面を指して）ほら。
千秋　パソコンのそれって、９９％からが長い時あるよね。
ヒデ　そこでいい子にしてろ。

千秋離れて。

千秋　もう、見たくないよ。
優子　それは、まぁ……そうですが。
ヒデ　千秋！
千秋　な、なに。大きな声出さないでよ。
ヒデ　頼む。あと少し辛抱してくれ。
千秋　わかったって。
優子　やれやれ。

千秋戻る。

千秋　あーあ。今日はさっさと仕事終わらせて、ＳＮＳでリア充画像上げてるにヤツ粘着リプしないと！
優子　何ですかそれ？
千秋　ストレス発散？

ヒデ　次で最後だ。
千秋　おー。
ヒデ　いくぞ。
千秋　ぴっ、

暗転。

千秋　押させて！最後まで言わせて！

再び旅館。薄暗い。由紀夫、ひなた、佐野、絵梨がいる。

絵梨　お茶でもお入れしましょうか。
佐野　あ、いや、結構です。
ひなた　ありがとうございます。
絵梨　そうですか。

希・るり子入ってくる。

希・るり子　お見えになりました。

達樹入ってくる。

達樹　母さんは？
ひなた　部屋で……休んでる。
達樹　どういう事？何があったの？
ひなた　わからないの。
達樹　わからないってどういう意味だよ！何があったか聞いてるだけじゃないか。
由紀夫　達樹。
達樹　だって、……ごめん。
佐野　代わりに僕が説明しますよ。
ひなた　お願いします。
佐野　先週の土曜日、連休の中日(なかび)だね。ハルさん達と この辺りの観光名所に行ったんだ。
海の中に大きな岩があって近くの広場から見られるところ。何と言ったかな……。
絵梨　二見岩ですね。
佐野　そうそう。絶景だったよ。日本海の荒波が打ち付ける中に凛と立っている岩……岩と

いうより小さな島かな。いや、岩で良いのかな……？うーん……地質学的に岩というのは石の大きいものという意味だけど、島っていうのは地質学というより法律的な定義があって、

ひなた　英治さん。

佐野　失敬。申し訳ない。

達樹　あの、土曜の話は電話で聞いてますんで。

ひなた　お母さん、薬を飲んだみたいなの。

達樹　薬？

ひなた　うん。

佐野　眠り続けてもう４日経ってる。

達樹　は？

佐野　お医者さんの話じゃこのまま……目は、ずっと覚めないらしいんだ。

達樹　そんな、なんでそんな薬を？

佐野　わからない。

ひなた　とにかく、横浜の大きな病院で診てもらおうと思うの。帰りましょう。

達樹　わかった。

佐野　行こう。

達樹　父さん。

由紀夫　ああ。

達樹　行くよ。

由紀夫　ああ。

絵梨　希、るり子。

希・るり子　はい。

絵梨　お部屋までお手伝いに行きなさい。

希・るり子　はい。

暗転。

▽１２場

ヒデと優子、千秋が出てくる。

千秋　キーは？

ヒデ　生成されたみたいだ。

千秋　解除おめでとう。溶け出すねぇ。

優子　ありがとうございます。医療チームに伝えてきます。
ヒデ　ああ。

優子はける。

千秋　……ねぇ。
ヒデ　ん？
千秋　解凍しちゃってよかったの？
ヒデ　仕事だからな。
千秋　ホントに？
ヒデ　なんだよ。
千秋　今日のヒデ、なんかヘン。
ヒデ　……。
千秋　ハルさん、かわいそう。
ヒデ　そうか？
千秋　……ね、私は私だよね。
ヒデ　お前でもそんなこと考えんのか。
千秋　だってさ、
ヒデ　自分が誰かなんて誰も証明するこたできねぇよ。今朝起きた自分が昨日の自分とおんなじかどうか。この思い出は本物か。てめぇで「覚えている」大事な人は本物か。
千秋　こわーい。
ヒデ　昔そんな映画あったよな。主人公は普通に暮らしているつもりでいるけど、実はバーチャルリアリティ的な、夢の中の世界だったって話。こう、こうやって鉄砲の弾よけるやつ。
千秋　んー……知らない。
ヒデ　……過去じゃない。昔の記憶なんてのは今と未来のためにあるんだ。
千秋　そっか。なんかよくわからないけど、かっこいいね！
ヒデ　はぁ？
千秋　過去じゃない。昔の記憶なんてのは、
ヒデ　茶化すな。
千秋　はーい。……じゃあうちらは帰りますかぁ。
ヒデ　せっかちだな。
千秋　こういう日は早く帰ってネットゲームで小学生をボコボコにしなきゃ。
ヒデ　なんだよそれ。
千秋　ストレス発散？私つよーいって。

優子が帰ってくる。

優子　ハルさんの解凍、無事終わりましたよ。
千秋　はやーい。ラーメンみたいだね。
ヒデ　飲んだ薬ってのは、いいのか？　確か、もう目覚めないって。
優子　ええ、あの時代ではまだ解毒できなかったのかもしれませんが。
ヒデ　……そうか。
優子　今日はありがとうございました。代金は指定の口座に振り込んでおきますので、
ヒデ　ちょっと待ってくれ。
優子　はい？
ヒデ　話がしたいんだ。少しでいいから。
優子　あら。

優子少し照れた後、ヒデを品定めして独り言を漏らす。千秋が盗み聞き。

優子　まぁ、顔は私の好みってわけじゃないけど、仕事の腕は合格点よね。確かにこの仕事についてから出会いは無いわよねぇ……。
千秋　ヒデー、おねーさん勘違いしてるよー。
優子　な、な、なにを！？
千秋　出会い、無いのかぁ。奇麗なのにねぇ。
優子　そ、そんなことありません。
千秋　自分で言ってたじゃん。
優子　言ってません。
千秋　言ってたって。
優子　事実無根です。濡れ衣です。冤罪です。出会いまくりです！
千秋　いいなぁ……。
優子　あ、いや、
千秋　朝起きて出会い、歯を磨いて出会い、トイレに行って出会い、玄関を出て出会い。
ヒデ　お前さん……監視されてんのか。
優子　馬鹿ですか。
千秋　トイレで出会ったヤツはやめとけー。
ヒデ　確かに。
優子　あ、あのですね、
ヒデ　悪い。さっきの、ほら、神崎ハルさんと話してえんだ。
優子　あ、ああ！　はい、そういう事でしたか。

千秋　え？あの状況じゃ他に無いでしょ。
ヒデ　頼めないか？
優子　あ、えっと、問題ないとは思いますが……。確認してきます。

優子はける。

千秋　珍しいね。ヒデ。どうしたの？
ヒデ　なんでもねぇよ。
千秋　年上好きだっけ？でも相手は人妻だよ？苦労するよー？
ヒデ　アホか。もういい。先に帰ってろ。
千秋　ヒデ、知ってる？ベッキーの本名って「別所（べっしょ） 清子（きよこ）」って言うんだって。
ヒデ　うそつけ。

ハル、入ってくる。少しふらついている。

優子　ハルさん！まだ歩いちゃダメって。
ハル　大丈夫です。（ヒデに）何か、何かご存じなんですか？
優子　ああ、せめて座っててください。

優子、椅子を勧めてハルを座らせる。

ハル　どうして私は、なぜ生きてるんですか？
優子　落ち着いてください。大丈夫ですから。
ハル　だって、
優子　まだお目覚めになったばかりで混乱されてるんです。
ヒデ　ハルさん。神崎、ハルさん。
ハル　え？あ、はい。
ヒデ　もう誰かに聞いてるかもしれねぇけど、あんたが眠ってからだいたい７０年が経ってる。
ハル　先ほど伺いました。でも、私は、
ヒデ　死ぬことを選んだはずなのに。
ハル　……生きていちゃダメなんです。私なんか。
ヒデ　どうして？
ハル　どうしてって……。
ヒデ　あんたを死なせたくなかった人がいたんだ。

▽１３場

（各シーンに役者板付き、由紀夫が動いていく）

回想①。ハルが眠りに落ちてから。医者が由紀夫、ひなた、達樹に診断結果を伝えている。

医者　残念ですが、現在の医学では奥様を目覚めさせることはできません。

ひなた　嘘！何か、何か手はあるでしょう？

由紀夫　ひなた。

ひなた　だって、

医者　申し訳ありません。残念ですが。

達樹　意識はあるんですか？

医者　いえ、眠っている……そんな状態です。

達樹　じゃあ、母さんはどうなるんですか？

医者　……植物状態といいましょうか。脳が死んでいる訳ではないのですが、眠ったまま、だと思われます。

達樹　思われます？

医者　普通なら死んでる量だったんです。

達樹　わからないってことですか？

医者　いや、目が覚める可能性はほぼゼロに等しいでしょう。

由紀夫　で、どうなるんです？

医者　ですから、先ほど申し上げた通り、

由紀夫　眠ったまま、どうなるんです？

医者　それは……いつかは……死を迎えるでしょう。

由紀夫　このまま？

医者　……はい。

由紀夫　意識が戻ることもなく？

医者　……はい。

回想②。佐野がいるところに由紀夫が入ってくる。

佐野　先生。

由紀夫　呼び出してすまないね。大事な会議じゃなかったのかい？

佐野　何をおっしゃってるんですか。奥様は？

由紀夫　目を覚ます見込みは、無いそうだ。

佐野　そう、ですか。
由紀夫　佐野君。
佐野　はい。
由紀夫　こないだの原作のオファー。
佐野　え？
由紀夫　家に来た時に説明してくれただろ。映画の。
佐野　あ、いや、覚えてますよ。でも、
由紀夫　まだ間に合うか？
佐野　えーっと、多分。あー、先方が別の作家さんを見つけちゃってたらアレですけど。
由紀夫　俺がやる。
佐野　一応頼んではみますけど、どうしたんです？
由紀夫　冷凍睡眠を。
佐野　先生？
由紀夫　スポンサーの会社案内があった。民間で初めてコールドスリープができるって。
佐野　あ……。
由紀夫　頼む。
佐野　オトコ佐野英治、やっと先生に恩返しする時が来ました！わかりました。何とかしてみせます。
由紀夫　アテにして良いのか？
佐野　ＳＭＡＰの歌じゃないんですよ？正義の味方もたまにはアテになるんですって。
由紀夫　ありがとう。
佐野　でも先生、オファー受けなくても、アレ、いつかは売りに出すはずですし、
由紀夫　佐野君。
佐野　はい？
由紀夫　いつかじゃダメなんだ。
佐野　……。
由紀夫　ハルを助けたいんだ。

回想③。ひなた、達樹がいる。、由紀夫が入っていく。

達樹　俺は……父さんの好きにしたらいいと思う。
ひなた　私は反対よ。未来なら助かるかもしれないって、確実？絶対？１００万年後でも助からないかもしれないじゃない。
由紀夫　ひなた……。
ひなた　冷凍睡眠なんて技術だって信頼できるの？スペースシャトルだって事故に遭うのよ。

由紀夫　それはそうだが、
ひなた　お母さんが死んじゃうのはイヤよ。当たり前でしょう？でも、どうして私達を置いて……。
達樹　姉ちゃん……。

佐野から電話がかかってくる。佐野、袖に出て来る。

由紀夫　はい。神崎です。
佐野　佐野です。お世話になります。原稿、受け取りました。いや、さすがです。一文字一文字に魂が籠ってるというか、やっぱり気迫が、
由紀夫　例の件の方は？
佐野　あ、はい。一応、何とかなりそうです。
由紀夫　ありがとう。そうか。ありがとう。
佐野　ただ、ですね……。
由紀夫　どうした？
佐野　金額が、ですね。
由紀夫　原稿料か？
佐野　いや、そっちじゃなくて、コールドスリープの料金が、
由紀夫　いくらだ。
佐野　（口パクで）
由紀夫　わかった、いつまでだ？
佐野　しかし、
由紀夫　この家を売ろう。
佐野　……。
由紀夫　大丈夫だと言っているんだ。
佐野　……はい。あ、えっと、打合せの日やら締め切りやらはメールしておきますので。
由紀夫　わかった。
佐野　失礼します。

由紀夫電話を切り、出かけようとする。佐野はける。

ひなた　お父さん！待って。
由紀夫　わかってくれ。
ひなた　それでお母さんは本当に幸せなの？
由紀夫　俺はどうしてもアイツを死なせたくないんだ。
ひなた　友達も家族もいない未来で、そんな世界で生きていく事は本当に幸せなの？

間。

由紀夫　それでも！それでも生きていられるじゃないか。
ひなた　そんなの死んでしまったのと同じじゃない。
由紀夫　同じなんかじゃない。このままじゃあまりにも、
ひなた　一人ぼっちになっちゃうんだよ！　お母さん、また……。
由紀夫　……それでも。生きてさえいればもう一度幸せになれるかもしれないだろう？

由紀夫ハケようとする。

達樹　待てよ。
由紀夫　達樹。
達樹　俺も行く。

由紀夫うなずき、達樹と一緒にハケる。

▽１４場

回想終わり。どこかの施設。

ハル　そう、だったんですね……。
ヒデ　……。
ハル　私はどうしたらいいの？
ヒデ　それはあんたが決めることだ。
千秋　言い方。
ヒデ　オッサンはあんたの為に全てを投げうってんだ。大事に、しろよ。命をよ。
ハル　でも、なぜあなたはそんなに……？
ヒデ　……ばあちゃんが、そう願ったんだ。
ハル　おばあ様？……もしかして。
ヒデ　俺は、あんたの曾孫（ひまご）だ。
千秋　え？
優子　え？
ヒデ　ばあちゃん、５年前までは生きてたんだ。一緒に暮らしてた。
ハル　ひなちゃんの……。

ヒデ　あんたと生きていられる日が来るまで、ばあちゃんはずっと待ってた。
優子　ハルさんが飲んだ薬が解毒できるようになったのは今年に入ってからですからね。ナノマシンの実用化で、
ヒデ　助かったよ。俺の代でダメなら次に託すつもりだったが、子供はおろか、相手に事欠く状態でね。
千秋　ヒデ、モテんのにな。
ヒデ　うるせえ。
千秋　照れんなって。
ヒデ　正直さ、若い頃はあんたを恨んだ。てめえで死にかけて、何十年も家族に迷惑かけてるあんたを。
ハル　ごめんなさい。
ヒデ　ばあちゃんに渡された本が俺を変えた。

一冊の本を取り出す。

ハル　これは？
ヒデ　達樹さんが遺した本だって。
ハル　達樹が？
ヒデ　ああ、渾身の仕事だったらしい。というかこれ、半分はあんたの話だ。タイトルも、ほら。
優子　（所持品リストを見せて）ハルさんにも一冊贈られていますよ。
ヒデ　ああ、そうか。後で読んでみてくれよ。
ハル　ええ。

呼び出し音。携帯電話ではない、未来のヤツ。

優子　はい。わかりました。いえ、わたくしがそちらに向かいます。

優子、通信を終えて。

優子　少し席、外しますね。
ヒデ　わかった。
千秋　いい所なのに。
優子　ごめんなさいね。

優子、はける。

千秋　ばいばーい。

ハル　……ひなちゃんは？

ヒデ　ん？

ハル　ひなちゃんと達樹は幸せでしたか？幸せな人生を送りましたか？

ヒデ　……多分。そんなこと本人じゃなきゃわかんねぇだろ。

ハル　会いたかった。こんなことなら、会って謝りたかった。

ヒデ　ばあちゃんは何度もあの日の話をしてたよ。「旦那さんと北陸旅行に行って、あんたが何かを思い出した。なぜか自分から永遠の眠りについた。」なぜだ？あんたは何を思い出した？

ハル　旦那さん？

ヒデ　ん？

ハル　……そっかぁ。ヒデさん、でしたよね。英雄の英、英語の英で、ヒデさん。ヒデ……なにさんだろう。

ヒデ　何だよ急に。

ハル　あ、ごめんなさい。私が、思い出したことと、死ぬことを選んだ理由でしたよね。

ヒデ　ああ。

時が経った。照明が変わり、戻る。

ハル　私はそれが正しいことだと思っていました。国中（くにじゅう）の人が正しいと信じている法律では、根拠のない中傷記事を書いた罪を罰することはできないって言うんですから。それなら私が、私の両親を苦しめた咎人（とがびと）を同じように苦しめたい……。それが、大好きだった父と母に報いることだと信じていたんです。彼が、その彼が私と同じように同じだけ苦しむ姿を見たかった。

千秋　その場所が二見だった。

ハル　その時はもう広場のようになってましたけど、あそこには、昔、私の家があったんです。あの人が追い回した両親の家が。そんなところで彼は、自分の婚約者と幸せそうに海を眺めていたんです。武勇伝の一つでも語っているのかと思ったら……。そんなの、耐えられるはずがないじゃないですか。少なくともその時の私には耐えられなかったんです。

ヒデ　……。

舞台後方に回想の由紀夫、由紀夫の彼女、ハル。

ハル　彼女が少しの間一人になったところを、私は……チャンスだと思ってしまった。大事な人を失なう苦しみを味合わせられる。彼女を、その……殺めようとしました。簡単です。柵一つ越えたら崖なんですから。

ハルの独白にあわせて回想の２人、崖から落ちる。

ハル　でも、どういう訳か一緒に落ちてしまった。岩肌をかすり、水面に体が叩きつけられる衝撃。息ができなくて苦しくて……そこまでは覚えています。いえ……あの日、思い出しました。

千秋　さすがに１００年前は時効か。

ハル　一緒に落ちたはずの彼女がどこに行ってしまったのか、その時はわかりませんでした。だけど、バチがあたったんですね。私は記憶を無くして……世界で一番憎かった人を、世界で一番愛してしまいました。コインには裏があったんです。

千秋　悲しい、お話だね。

ヒデ　……オッサンに全部話せば良かったじゃないか。

ハル　そんなこと、できないわ。

ヒデ　どうしてだよ？

ハル　あの人にまで十字架を背負わせたくなかったんです。私はいいの。何も言わずにいなくなることが、私の……せめてもの罪滅ぼしだったんです。

ヒデ　そんなの、罪悪感から逃げているだけじゃないか。

ハル　だって、すべてを話してしまったら、由紀夫さんは知ってしまうじゃないですか。裏側で復讐の炎を燃やしていた女を、あの人の文章で追い詰められた娘を、今まで通り愛してくれるなんてはず……ないでしょう？

ヒデ　それでもオッサンは許したはずだ。だって、あの人は、

少し年老いた由紀夫が優子と現れる。

由紀夫　ヒデ君、オッサン呼ばわりが過ぎるだろ。

優子　神崎由紀夫さん、２４時間前にお目覚めになりました。

由紀夫　確かに眠りにつくのは少し遅れてしまったけどな。

ハル　あなた！

由紀夫　（ヒデと千秋に）ありがとう。無事に済んだようだね。感謝するよ。

ヒデ　仕事だからな。

千秋　ホント、素直じゃないなぁ。

由紀夫　ハル。久しぶりだね。

ハル　……ええ。
優子　私たちは外しましょう。
千秋　はーい。

優子、千秋、ヒデを残してハケる。

由紀夫　自分で書いた記事を忘れる訳はない。すぐにピンときた。でも信じられなかった。ハルがあの瀬野秋穂さんだったなんて。
ハル　……。
由紀夫　ハル……ハルと呼ばせてくれ。君がいた時には僕は気づいていなかった。……ただ、あの時、僕の正義は確かにそこにあったんだ。今思えば不確かな情報で義憤にかられていただけだったのかもしれないが、決して、
ハル　あなた。もういいの。
由紀夫　許してほしい。
ハル　許すも何も、私にそんな資格はないわ。

ハル、立ち去ろうとする。

ヒデ　待てよ。
ハル　（歩きながら）ごめんなさい。
ヒデ　あんたは独りじゃない。

ヒデの言葉の中、ハルが立ち止まる。

ヒデ　ハルさん、あんたは独りじゃない。
ハル　私なんか、
由紀夫　僕は！　僕は君に会いに来た。

ハル振り向いて。

ハル　由紀夫さん。
由紀夫　ああ。
ハル　きっと大変でしたよね。ご迷惑おかけした分は、できる範囲でお返ししますから。
由紀夫　ハル？
ハル　……（ヒデに）正しさって一体何なんでしょうね？
ヒデ　物事に正しいも間違ってるもねえよ。

由紀夫　信じてるものはあるだろう？信じるに足るものは。一緒に過ごした２５年間を君は覚えている。

ハル　（笑って）でもその間、私は、自分の信念すら忘れてしまっていたのよ。……忘れていたからって。昔の話だからって。

ハル、少し離れて。

ハル　赦されるべきじゃないんです。

間。

ハル　私は人を殺した女です。私は、あなたを苦しめました。達樹とひなちゃんを苦しめました。ヒデさんも。……私はただ、神崎ハルとして由紀夫さんの中に残っていたかった。裏の記憶が無い神崎ハルで。もういいのよ。私には独りが、二度とハルを独りにしないために、僕はここにいる。ひなたと達樹の思いも７０年前から持ってきた、ここに。…ハル。

由紀夫　ああ……。

ハル　由紀夫がハルを抱きしめる。

ハル　……ありがとう。

暗転。

▽１５場

時は戻り、旅館。神崎家の事件から数年後。晴れた休日。

絵梨　いらっしゃいませ。今日は、お天気が良くって良かったですね。

るり子　ありがとうございました。お気をつけて。

明転。

絵梨とるり子がいる所に希、紙を持って走ってくる。

希　絵梨さん、るり子！

絵梨　どうしたの？
るり子　んー？
希　見て、見てこれ。
るり子　何これ？メール？
絵梨　謹啓、時下、ますますご清栄の事とお喜び申し上げます。
るり子　お固いわね。
希　もっと先、先。
るり子　この度、文壇社新人賞にご応募いただきました貴殿の作品「ハルのコイン」が最終選考に……。
絵梨　すごいじゃない！
るり子　希！
希　ありがとう！
絵梨　ついに小説家デビュー？
希　ううん。まだ最終選考の８作品に残っただけだから。
るり子　でも、５、６００本の中の８つでしょ？
希　うん、まぁねー。で、担当編集が付いてくれる事になりました。
絵梨　すごいじゃない。もうデビューしたも同然よ！おめでとう！
るり子　すごいね。すごいね！

るり子と希、同じ動き。

希・るり子　せーの、隣のきゃりーぱみゅぱみゅとパフィは、よくパフェ食うきゃりーぱみゅぱみゅとパフィだ。
絵梨　今日はもういいから。
希・るり子　えー。
絵梨　それより小説でしょ？希、長いこと頑張ってたもんね。
るり子　うんうん。
希　しかも、聞いてくださいよ。その編集の人があの、
絵梨　あの？
希　神崎先生の息子さんなんです！
るり子　神崎先生の？
希　はい。
絵梨　へぇー。
希　私、先生にお会いしてから本格的に書き始めたんです。先生が原作を書かれた映画を観て、いつかこんなお話を書けるようになろうって目標が持てたんです。

るり子　そうだったね。
希　先生にもう一度お会いするのは難しいかもしれませんが……。
絵梨　どんなお話なの？
るり子　あらすじあらすじ。
希　えー 原稿渡すから読んでよー。
絵梨　ちゃんと読むわよ。でも聞きたいじゃない。新人賞入選作。
希　まだ入選してませんから。
るり子　前置きが ながーい。
希　（ゆっくりと）えっとあのね……人を許す、お話です。
絵梨　許す？
希　はい。許すのって大変じゃないですか。
絵梨　ええ、まあ。
希　頑（かたく）なに自分の正しさを信じて生きてきた主人公が、ある事件を通じて気づくんです。
自分の裏側に。そこから彼女は過去を後悔しはじめて、
るり子　意味わかんない！
希　るり子、聞く気ないでしょ？
絵梨　無さそう。
るり子　希がまとめ下手なんだよー。
希　何それ、ひどくない？

絵梨が笑い、つられて希、るり子も笑う。

希　先生にお礼、伝えたかったな。
絵梨　きっと、届くわよ。希の本が、未来にも。

（終）